

「生きる力」をつける

学力向上 推進事業

二戸市教育委員会では、平成23年度から、学力向上推進事業を展開しています。今、二戸の子どもたちの学力の一面はどうなっているのか、お知らせします。

求められる学力

学力は知識の量やテストの結果など、「見える」ものばかりではありません。よく考え、しっかり判断し、自分の考えをきちんと伝えるなどの「見えにくい力」も学力です。

また、学習の過程での「理解しよう」「頑張ろう」という気持ちや「わかった」「できた」という達成感は、人間にとって大切な意欲や向上心を養うものです。

このような学習意欲の向上や学習習慣の定着が加わることによって、「本当の学力」になります。まさに学力は、徳育や体力と並び生きる力そのものなのです。

私たちは、生活の中で起こるさまざまな出来事に対し、自分なりに考え、判断し、行動しています。楽しい決断もあれ

ば、つらく苦しい決断もあります。

いずれにせよ、これまでの知識や経験をもとに、時には新たに勉強し、よくよく考え、しっかり判断し、行動するということを毎日繰り返していることに間違いはありません。

地域や職場などの「社会生活」や「家庭生活」で起こるいろいろな出来事を思うと、このような学力をしっかりと身につけることが、いかに大切かということがわかるのではないのでしょうか。

算数・数学をしっかり

学力向上には、「学校の意識」「授業の充実」「子どものやる気」「家庭の支援」が必要です。市教育委員会は「わからないことをそのままにしない」を言葉に、学力向上を最重要課題として掲げ、次の

ことに取り組んでいます。

- ① 重点指導事項・重点指導学年を決める
 - ▽小学校2年生 「乗九九」
 - ▽小学校4年生 「整数の四則計算（※1）」
 - ▽小学校6年生 「小数分数の四則計算」
 - ▽中学校1年生 「正負の数」「文字を用いた式」
- 算数・数学の基礎的な内容は、何度も何度も繰り返し学び、それぞれの学年でしっかりと身に付ける必要があります。
- ② 全国や県の調査で学力を分析する
 - ③ 達成目標・取り組み内容を「まなびフェスト」（※2）に示す
 - ④ 子どもたちが生活のリズムを整え、家庭学習をしっかり行うよう家庭に協力を求める

※1 四則計算：たし算、ひき算、かけ算、わり算の総称
※2 まなびフェスト：学校が目指す児童・生徒像などを、小中学校において教職員、児童生徒、保護者などが目標を共有し協働して達成するための目標を定めたもの



外部講師を招いて模範授業を行い、授業力を高める



サテライト学習会で、学生ボランティアが夏休み中の勉強を手伝います

☆二戸授業モデル

真の学力をつけるための授業を目指し、市内すべての小・中学校に共通する授業の進め方に取り組み、小学校と中学校が同じ視点から授業を行います。

授業では、次の3つのポイントにより、学習内容の確実な定着と言語活動の充実を進めていきます。

- ① 授業のゴールを明確にするための課題を設定する。
- ② 教師の説明を聞くだけでなく、子どもたちがお互いに考えを発表し合う「言語活動」を取り入れ、課題解決を図る。
- ③ 授業で学んだことをまとめたり、振り返ったりする。

☆東京学芸大学との連携

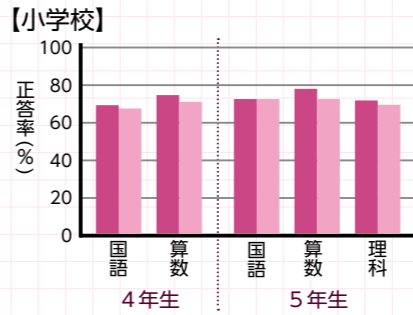
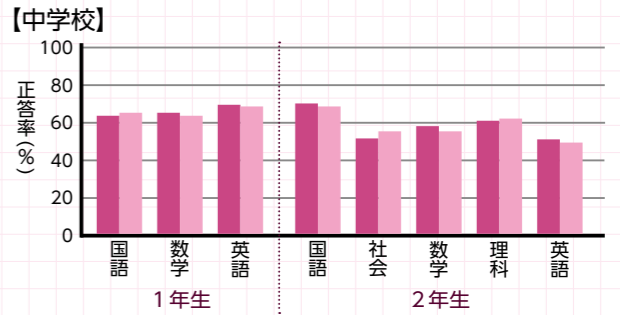
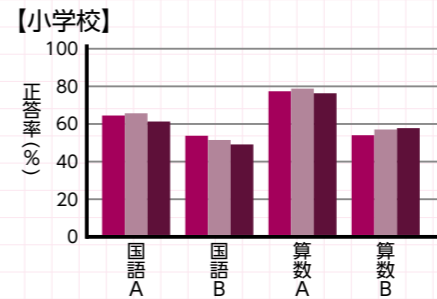
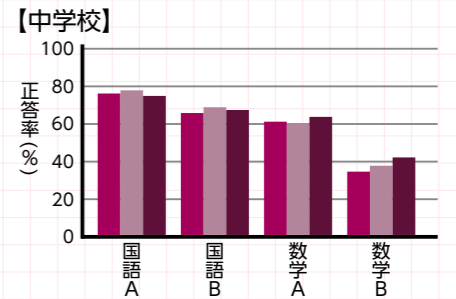
優れた実践を進めている学校の取り組みに学ぶとともに、優れた指導力を発揮している教員の授業や講義を通して、教員の授業力の向上を図ります。

☆サテライト合同学習会

二戸市出身の大学生などのボランティアが、夏休みの課題を中心に、中学生一人ひとりの疑問に応えながら学習を支援します。

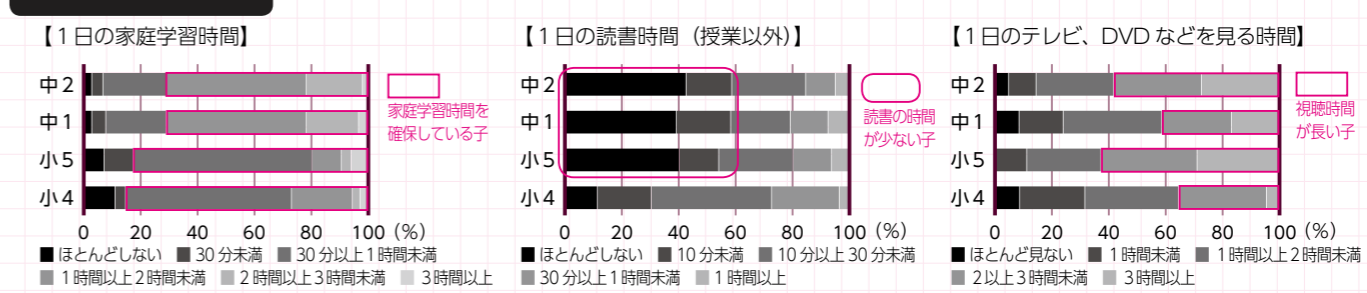
☆ブックツアーと学校図書館支援員

真の学力は、読書活動によって高まります。今年度から小規模校の児童に、より多くの本に親しんでもらうため、「ブックツ



平成25年度 全国学力・学習状況調査
二戸市 岩手県 全国
〈国の調査：4月実施〉
A：主として「知識」に関する問題
B：主として「活用」に関する問題

平成25年度 岩手県学習定着度状況調査
二戸市 岩手県
〈県の調査：10月実施〉



「アー」を始めました。子どもたちは年に数回、市教委が用意したバスで市立図書館を訪れ、好きな本を借りることができます。さらに、児童生徒がより利用しやすい図書館となるよう、学校図書館支援員が学校を巡回訪問します。

学校図書館支援員は、学校図書館の環境整備、読み聞かせや本の紹介などを行い、子どもたちの本への興味を高めるとともに、子どもたちが学校図書にふれやすい環境をつくりまします。

学力、伸びています

算数・数学を中心とする本市の取り組みですが、成果は他の教科でもあらわれれています。（右ページのグラフ）

「平成25年度全国学力・学習状況調査」をみると、二戸市の平均正答率は着実に上がっています。

さらに「平成25年度岩手県学習定着度状況調査」では、小学校において初めて全教科が県平均を上回る結果となりました。

またグラフから、家庭学習の習慣がある程度ついていることがうかがえます。

しかし読書の時間が少なく、テレビ・DVDなどを見ている時間が長いなど、この点は家庭の協力が絶対に必要です。

二戸の子どもをかしこく、たくましく育てたい。これは親のみならず、すべての市民の願いです。

二戸の将来を担う子どもたちの学びを、学校や家庭だけでなく、二戸市全体で考えていきましょう。

INTERVIEW

かとう のぶゆき 加藤 暢之 教育企画課 学力向上推進監



という基本の流れが確立されています。今子どもたちに求められている「考える力」を育成するために、読書活動による土台作りを始めています。今年度から始めた図書館支援員の派遣やブックツアーなどにより子どもたちの考える力を伸ばしていきます。

4月から学力向上推進監を務めています。子どもたちの学力向上には学校の取り組みがとても重要ですが、二戸ではまなびフェストが各校で徹底され、先生方の意識も高いです。授業の進め方も「二戸授業モデル」の導入で明確に示され、言語活動を交えた「課題設定」「課題解決」「まとめ・評価」と